

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まごっち		
○保護者評価実施期間	令和8年2月10日		令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和8年1月23日		令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内で認可外保育所やキッズスペース、介護事業等を行っていることから、障害の有無に関わらず様々な世代や環境の方々と交流の機会や様々な経験を重ねることができる。	認可外保育所・キッズスペースとは日常的に関わりを持ったり、季節行事を合同で行い交流を深めている。隣接の有料老人ホームやシェアハウスには季節行事等で訪問したり、音楽会や芸術鑑賞会などのイベントに招いてもらい交流の場を設けている。	季節行事を通して季節の移ろいを感じたり、伝統文化の体験から行事やマナー、決まり事を学んだり、自分の周りには色々な人がいて、色々な考え方や物事への向き合い方があることをお互いに理解し、そういった人たちとの関わりや共に行事に取り組むことを通して協調性を育み、楽しさを分かち合っていく。
2	主として活動するスペースの他にも部屋が数部屋あるため、活動内容や利用者の状況によって個別対応や静養として場所を分けたりと、目的に応じて柔軟な使用の仕方ができる。	主として活動するスペースにおいてはホワイトボードにその日の予定を掲示することで見通しが持てるようにし、活動内容や場面・気持ちや行動の切り替えのきっかけとして部屋を移動したり、クールダウンや体調不良で静養が必要な際には個室対応したりと状況に応じて細やかに配慮しながら対応している。	活動内容や過ごし方によって活動の住み分けが難しく感じる場面があり、好きなことややりたいこと、苦手なことや不快なことが個々で異なるため、お互いが心地よく、楽しく過ごすためにはどうしたらよいかを利用者様と共に考えながら、みんなが楽しい空間づくりに取り組んでいく。また、それに必要な職員の体制や配置の工夫を行っていく。
3	利用者様ひとりひとりの特性に合わせた支援や対応を工夫して行っている。	利用者様同士、あるいは利用者様と職員の間を通じた“気付き”ことや、自分で“選択・決定”する機会を作り物事に取り組むこと、“できた”という経験をすること、それらを通して自分が嬉しい気持ちになったり身近な誰かが喜んでくれたという喜びの積み重ねを大切にしている。また、それに必要な環境設定や配慮を心掛けている。	引き続き、意思決定や気付き・学びの経験を深めながら、日々の活動や遊びを通して自分の気持ち・他者の気持ちの理解、関わり方や場面に応じた適切な言動に繋げていく。成功体験や感謝される喜びを自信に繋げ、心豊かに様々なことに挑戦する力をつけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者様の成長と共に、車や車椅子、ベッドへの移乗や排泄などの介助に困難さが生じたり、車やエレベーターが手狭になっている。	車、車椅子、エレベーターのサイズや扉の間口などの物理的な(変えることの難しい)要因、人手やスキルなどのマンパワーの要因があり、困難さが生じた際には職員間で共有し、改善できる点を検討したり、より良い介助方法を検討している。	物理的な部分を変えられない面もあるが、対応の工夫や介助のスキルアップを図ることで改善できることもあるため、その都度検討し、利用者様にとっても職員にとっても安全で安心できる介助方法を模索していく必要がある。
2	保護者様に対する各種マニュアルに関する情報共有、情報の発信の仕方の不十分さ	各種マニュアルの整備や定期的な避難訓練等を行っているものの、保護者様への周知が行き届いていない部分がある。日頃より、保護者様とは連絡帳や送迎時、面談時に情報共有を図っているものの、利用者様に関する内容が多く、契約時やマニュアル作成時等に伝えてはいても、それらが周知できているかの確認は不十分であったと考えられる。	ホームページおよびSNSの活用や、面談時を利用して各種マニュアルを作成していることやそれに沿ったの対応についての周知を図る。要望に応じてマニュアルを閲覧できるようにする。
3	法制度やそれを取り巻く環境の変化に伴う情報収集や知識の不足	報酬改定や福祉情勢の変化により、これまで知り得た知識とそれに伴って来たことに加え、新たな情報の収集や取り組みが必要になってくるが、それらに対する理解や知識の習得が十分ではないように感じることがある。	適切な支援や運営を行っていくことができるよう、新たな知識を理解し習得するために、変化に細やかにかつ柔軟に対応できるように、日頃から情報収集・共有を心掛ける。